

<1996>

- ◎華麗なる中井一族(中井亮作)  
(熊本県立天草高校創立100周年記念出版『天高群像』)
- 全国有機農業者マップ(日本有機農業研究会発行)

標題は編集者がつけられたものごと

〔第二項 行政〕

華麗なる中井一族

(推薦会員 中井亮作)

明治十八年(一八八五)(五和町<sup>旧</sup>井手村にて出生。生家は農林業を営む手野の豪農(地主)。四男三女の末弟。手野尋常小学校、本渡高等小学校(？)、濟々齋<sup>天草分</sup>、五高、東京帝大工学部造船学科と学び明治四十四年卒業、通信省へ。通信管理局技手として各地の港湾に勤務。大正三年技師(船舶管理官)に昇格。長兄虎六郎と養子縁組をしていたこともあり、その勧めに従って官途を退き大正六年帰郷。鬼池で造船所を創設、<sup>数々の</sup>木造船帆船を造ったが数年後には廃業、帰農こそ故郷に返った最大の目的として農林業兼地主の生活に入り、かわら青少年の育英の指導に当たった。やがて二百余の小作人を一丸とした中井農会を組織、農事改良、経営の合理化に努めた。大正十年手野信用購買販売利用組合理事、昭和二年から二十二年まで組合長を務め県下の優良組合として認められるまでに育て上げた。この間、村議、郡農会長、県購買連会長、県信連会長に推され、昭和十七年第二十一回総選挙では大政翼賛会の推薦を受けて衆議院議員に当選(熊本二区で最高点)、さらに木材統制の国策会社として熊本木材が設立されるや社長に就任、続いて八代木工、三角海運、熊本製果などの社長に迎えられた。終戦後公職追放となり、二十六年病にて没す。六十七歳。

郷土新聞の紹介記事に数十の数字を以て見ることができ、その能力を考へるに数長と思われ  
※旧制天草中学の前身(現天草高校)



前列左より 井上国男(子供)、井上宗次、中井勳作、中井亮作、中井虎六郎、中井博堯、葦原雅亮

亮作の姉婿

ると多分、非政治的”な人であったのであろう。  
なお長兄虎六郎、次兄勳作の学齢期には未だ濟々齋天草分校は開設(明治二十九年)されておらず、その出身者には該当しないが虎六郎は明治五年に生まれ濟々齋から同志社、東京専門学校(早稲田大学の前身)政治学科に学び帰郷。郡会議員、手野、二江村長を勤めたあと再び上京、海外興業株式会社の常務取締役に就任、大正初期から昭和初期にかけてブラジル移民に尽力、昭和八年病没。

昭和三年の御大典に際してカライモ、四年の熊本で行われた陸軍特別大演習にはマツタケ、さらに七年には献穀田の奉仕を命ぜられ新米をと、天皇に三度の献上（当時の農村にあつては荣誉な行事とされた）を果たす程に謹厳実直な地主であつたようだが、手野にあつては腰に小鎌をさして山回りを欠かさず、村人と酒を飲みかわしては興至ると禿頭に盃を乗せて“野崎参り”を唄い踊るなど、小作の人達との隔たりを嫌つたという。貸したお金の返済を求めて訪ねた家の戸口から中にはいれず、そのまま戻つてきてしまつた話、或いは戦後の農地改革に先んじて小作の人達に農地を分譲した事など思い合わせ

一人父の元で農事に励んでいたが東京の長兄を頼つて上京。その後応召して海軍に入隊、日露戦争に出役。凱旋帰郷して大正五年分家。昭和二十一年まで通算六期、二十年にわたつて手野の村長を務め、村道整備、橋梁架設、ため池の築造など社会基盤の充実に力を注いだ。昭和三十四年没。

祖父亮作を含めた四兄弟について記させて頂いた。多くの小作の人々の汗に支えられて高等教育を受け世に出られた兄弟達。いずれも周囲に迷惑を及ぼすような野心・欲心とは縁遠く過ごせたのは次のような事情によるものだろうか。以下亮作の回想記「鎌と私」より一部抜粋。

「……私は農家に生まれ、家は農業、林業をやつてゐる。地主であつたから小作させるわけであるが、若干自作をやらないと小作人の労苦もわからないし、天候や害虫等の状態によつて、収穫がどう変わるかもわからないから、地主のたしなみとして面倒でも自作をしておつた。地主が小作している人達と、どういふ風に接触して行くかという事は、労務関係である。それがまずければ小作争議が起こるし、うまくいけば労資双方とも幸せであ

亮作は明治十二年生まれ。五高、東京帝大法科へ進み農商務省入省。あえて非主流の林務畑を歩むも特許局長、山林局長を経て大正十三年次官に就任。時の農商務大臣・高橋是清の要請を受け半年で同省所管製鉄所（俗称官営八幡製鉄所）の第六代長官に転じ、当時の政府・産業界積年の懸案であつた製鉄合同の衝に当たる。昭和九年、半官半民の国策会社日本製鉄の発足とともに初代社長に選任され同十四年までこれを務めて勇退。その後、父兄として縁のあつた成城学園理事長を戦後の公職追放まで引き受けた。昭和四十二年没。

博亮はすぐ上の兄で明治十六年生まれ。齊力人に優り

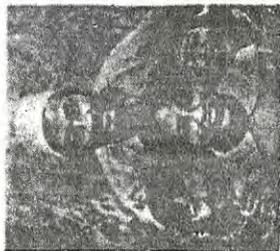
る。…私の生家では、毎年の収穫の内から一部を割いて、積立てておいた金で、小作人と試験所との連絡をとつて、種籾、肥料の選定等に意を用いて収穫を多くすることを奨励したが、更にまた小作人の子弟で学問したいが、学校にやれないという者を、毎年幾人か県の農学校に入れて、学費を支給したりした。そんなことで父や兄はいろいろ気を使つておつたが、今考えると、子供の時からこの様子を傍で見聴きしていたことが、後年、労務問題を考える際に役に立っているように思われる。…」

近代日本という激動の“時代”と有縁の人に磨かれて“立身出世”を遂げた兄弟達。だが戦火への道行には抗いようもなく博亮、亮作は戦場に一子を失つた。個人の思いを呑み込むより大きな“時代の流れ”を思わざるを得ない。私は東京の生まれ育ちで三十歳から父祖の地に帰農した者だが、如何程野良仕事がきつかるうと収入が限られようと戦場で銃を握るよりは良いと心得過ごしている。

（筆者は中井家の一員、手野にご在住）

（中井俊作）

中井 俊作 (のーじ)



〔経営規模〕

- 水田 40 a
- 大豆・粟等穀類畑 10 a
- 野菜畑 2 a
- 果樹地 20 a
- 山林 18000 a
- 鶏(チャボ) 7羽
- 農産加工 味噌、梅干、漬物、ジャム

自給率は、20~30%作付付

自給分を除くは、すべて公有地とします

〔主な有機質肥料および資材〕  
下肥(人糞尿)、厩肥(もらいもの牛糞)、刈り草・わらの堆肥

〔主な現金収入〕 '99春 現在、春のパート収入 約8万円/月(行商窓口事務) 長が主任の期間配達、1.5万円/月

但、社会的活動経費(交通・通信、印刷、備品、新聞紙、燃料、書籍代など)約30~50万円/年)と公組・公庫・現金経費は別途、節減にて工夫している。

〒863-24 熊本県天草郡五和町大字井手 2646

TEL/電話 0969-34-0054 TEL 0969-34-0230  
〔交通手段〕熊本交通センターより快速バスで2時間15分、本渡バスセンターで手野経由富岡行で手野下車、徒歩5分

〔所属グループ〕熊本有機農業研究協議会 (所属約25分、18番目の15分)  
〔家族構成〕秀子(妻)、たお(長女)、クノ(次女)  
〔主な生産品目〕米、小麦、裸麦、大豆、ごま、菜種、柑橘類、野菜

すべては「このままでは人類は破局を迎える」という危機感から始まった。東京に生まれ育って22年、製鉄所勤め3年余、父の舞里・九州は天草に移住して早23年。移って間もなく衆院選に出馬(祖父が戦争中に一期代議士をつとめたこととあって)、落選して3年間の後始末、30才にして帰農の道へ。安藤昌益の「直耕」を「基本的人権としての自給農」と受けとめて自給自足に——自分の食べものは自分で作るのが自然・当然・必然、その上で社会的活動を、茶北火電反対運動世話人、ゴルフ場計画反対の立木トラスト事務局、地元では地区公民館長、農協青壮年部長、寺社の世話人などを経験。現在はヒラの消防団員(4年前に入団)、県の有機農業研究会(アフリカタンザニアのNGO活動)、農民連合九州、地球緑化の会(アフリカタンザニアのNGO活動)各運営委員。…向むべく似非らば

さて子どもが中学生の間に食の自給の抜と知意を伝えるのは親のソトメと心得ているが、このマップは子ども達に贈る“志縁”の財産目録だ。子どもをよそに修業に出すのだから勿論こちらも相応に受け入れる。 (94年 舞字社刊)

どころで、中島正氏の「都市を減ばせ」を読まれたらどうだろうか? この本の内容とどう向かい合うかで生き方、社会との関わり方がおのずと見えてこよう。「こんな地球に誰がした」と言いたくないし、私にも問もなく五十路を歩む。ご恩返しにの年代だ。「天草のわが家が お役にたつようなら、いつでもお越しください。」「おやじ」は無用。

離れまう

離れまう